

令和4年度 熊本大学2次試験前期日程(数学問題)120分
理系(理, 薬, 工, 医保健(放射線, 検査)) 令和4年2月25日

問題 1 2 3 4

1 a を実数とし, 座標空間の点 $P_1(a, 0, 0)$, $P_2(a+1, 0, 0)$, $Q(0, 1, 0)$, $R(0, 0, 3)$ を考える. G_1, G_2 をそれぞれ $\triangle P_1QR, \triangle P_2QR$ の重心とする. 以下の問いに答えよ.

- (1) P_1, P_2 を通る直線と, G_1, G_2 を通る直線は平行であることを示せ.
- (2) 四角形 $P_1P_2G_2G_1$ の面積を求めよ.
- (3) 四角形 $P_1P_2G_2G_1$ を底面とする四角錐 $Q-P_1P_2G_2G_1$ の体積を求めよ.

2 袋の中に赤玉2個と白玉2個の合計4個の玉が入っている. AとBの2人で次のルールに従ってゲームをする.

- A, Bの順で繰り返しプレイヤーになる.
- プレイヤーは袋から玉を同時に2個取り出す. 取り出した玉の色が同じならば, プレイヤーの勝利とする. 取り出した玉の色が異なるならば, それらを袋に戻してよくかき混ぜ, プレイヤーを交換する.
- Aが勝利するか, Aが勝利せずにAの後にBがプレイヤーになり, Bが勝利するか, Bが勝利せずにプレイヤーを交換することによって1巡が終了する.
- 勝者が決まるとゲームは終了する.

以下の問いに答えよ.

- (1) Bが1巡目で勝者になる確率を求めよ.
- (2) N を自然数とし, N 巡目以内にBが勝者になる確率を p_N とする. $p_N > 0.396$ となる N の最小値を求めよ. ただし, $\log_2 3 = 1.585, \log_2 5 = 2.322$ とする.
- (3) N を自然数とする. N 巡目以内に勝者になる確率は, AとBのどちらが大きいか.

3 x, y を実数とし, $f(p) = p^2 + xp + y$ とおく。このとき, 以下の問いに答えよ。

- (1) p の 2 次方程式 $f(p) = 0$ が実数解を持つような点 (x, y) 全体の集合を D とおく。 D を xy 平面上に図示せよ。
- (2) p の 2 次方程式 $f(p) = 0$ は実数解を持つとする。 $f(p) = 0$ の実数解がすべて 1 以下で, 少なくとも 1 つの実数解は 0 以上となるような点 (x, y) 全体の集合を E とおく。 E を xy 平面上に図示せよ。
- (3) 点 (x, y) が (2) の集合 E 全体を動くとき, $x^2 + y^2 - 4y + 4$ の最小値を求めよ。

4 関数 $f(x) = \sqrt{1 + \sin^2 \frac{\pi x}{2}}$ について, 以下の問いに答えよ。

- (1) $f(x)$ ($0 \leq x \leq 1$) の最小値と最大値を求めよ。
- (2) $0 \leq x \leq 1$ において, $\sqrt{2}x \leq f(x) \leq \sqrt{2}$ となることを示せ。
- (3) 数列 $\{a_n\}$ を

$$a_n = \int_0^1 \{f(x)\}^n dx \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

で定める。 $\lim_{n \rightarrow \infty} \sqrt[n]{a_n}$ の値を求めよ。ただし, $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\log(n+1)}{n} = 0$ を用いてよい。

解答例

$$\boxed{1} \quad (1) \quad P_1(a, 0, 0), P_2(a+1, 0, 0) \text{ より } \overrightarrow{P_1P_2} = (1, 0, 0)$$

$Q(0, 1, 0), R(0, 0, 3)$. $\triangle P_1QR, \triangle P_2QR$ のそれぞれの重心 G_1, G_2 は

$$G_1\left(\frac{a}{3}, \frac{1}{3}, 1\right), G_2\left(\frac{a+1}{3}, \frac{1}{3}, 1\right) \quad \text{ゆえに } \overrightarrow{G_1G_2} = \left(\frac{1}{3}, 0, 0\right)$$

$$\text{したがって } \overrightarrow{G_1G_2} = \frac{1}{3}\overrightarrow{P_1P_2}$$

よって, P_1, P_2 を通る直線と, G_1, G_2 を通る直線は平行である.

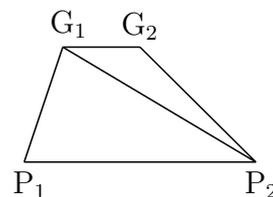
$$(2) \quad \overrightarrow{P_1P_2} = (1, 0, 0), \overrightarrow{P_1G_1} = \left(-\frac{2a}{3}, \frac{1}{3}, 1\right) \text{ より}$$

$$|\overrightarrow{P_1P_2}|^2 = 1, \quad |\overrightarrow{P_1G_1}|^2 = \frac{4a^2}{9} + \frac{10}{9}, \quad \overrightarrow{P_1P_2} \cdot \overrightarrow{P_1G_1} = -\frac{2a}{3}$$

$$\begin{aligned} \text{したがって } \Delta P_1P_2G_1 &= \frac{1}{2} \sqrt{|\overrightarrow{P_1P_2}|^2 |\overrightarrow{P_1G_1}|^2 - (\overrightarrow{P_1P_2} \cdot \overrightarrow{P_1G_1})^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{1 \left(\frac{4a^2}{9} + \frac{10}{9} \right) - \left(-\frac{2a}{3} \right)^2} = \frac{\sqrt{10}}{6} \end{aligned}$$

求める四角形 $P_1P_2G_2G_1$ の面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \Delta P_1P_2G_1 + \Delta G_1G_2P_2 \\ &= \Delta P_1P_2G_1 + \frac{1}{3} \Delta P_1P_2G_1 \\ &= \frac{4}{3} \Delta P_1P_2G_1 = \frac{4}{3} \cdot \frac{\sqrt{10}}{6} = \frac{2\sqrt{10}}{9} \end{aligned}$$



$$(3) \quad \overrightarrow{P_1R} = (-a, 0, 3). \quad \overrightarrow{P_1P_2} \text{ および } \overrightarrow{P_1G_1} \text{ に垂直な単位ベクトルの 1 つを}$$

$$\vec{n} = \frac{1}{\sqrt{10}}(0, -3, 1)$$

とする. 点 R から四角形 $P_1P_2G_1G_2$ に引いた垂線の長さ h は

$$h = |\overrightarrow{P_1R} \cdot \vec{n}| = \frac{3}{\sqrt{10}}$$

よって, 求める立体の体積を V とすると

$$V = \frac{1}{3}Sh = \frac{1}{3} \cdot \frac{2\sqrt{10}}{9} \cdot \frac{3}{\sqrt{10}} = \frac{2}{9}$$

■

2 (1) 違う色の玉を取り出す確率は $\frac{{}_2C_1 \times {}_2C_1}{{}_4C_2} = \frac{2 \times 2}{6} = \frac{2}{3}$

同じ色の玉を取り出す確率は、上の余事象の確率であるから $1 - \frac{2}{3} = \frac{1}{3}$

よって、Bが1巡目で勝者になる確率は $\frac{2}{3} \times \frac{1}{3} = \frac{2}{9}$

(2) N 巡目で B が勝者になる確率は $\left\{ \left(\frac{2}{3} \right)^2 \right\}^{N-1} \times \frac{2}{9} = \frac{2}{9} \left(\frac{4}{9} \right)^{N-1}$

よって、 N 巡目以内に B が勝者になる確率 p_N は

$$p_N = \sum_{k=1}^N \frac{2}{9} \left(\frac{4}{9} \right)^{k-1} = \frac{2}{9} \times \frac{1 - \left(\frac{4}{9} \right)^N}{1 - \frac{4}{9}} = \frac{2}{5} \left\{ 1 - \left(\frac{4}{9} \right)^N \right\}$$

$$p_N > 0.396 \text{ となるとき } \frac{2}{5} \left\{ 1 - \left(\frac{4}{9} \right)^N \right\} > 0.396$$

$$\left(\frac{4}{9} \right)^N < \frac{1}{100} \quad \text{ゆえに} \quad \left(\frac{3}{2} \right)^N > 100$$

上の第2式について2を底とする対数をとると

$$N(\log_2 3 - 1) > 1 + \log_2 100 \quad \text{ゆえに} \quad 0.585N > 3.322$$

したがって $N > \frac{3322}{585} = 5.6\dots$ よって N の最小値は **6**

(3) N 巡目で A が勝者になる確率は $\frac{1}{3} \left\{ \left(\frac{2}{3} \right)^2 \right\}^{N-1} = \frac{1}{3} \left(\frac{4}{9} \right)^{N-1}$

N 巡目以内に A が勝者になる確率を q_N とすると

$$q_N = \sum_{k=1}^N \frac{1}{3} \left(\frac{4}{9} \right)^{k-1} = \frac{1}{3} \times \frac{1 - \left(\frac{4}{9} \right)^N}{1 - \frac{4}{9}} = \frac{3}{5} \left\{ 1 - \left(\frac{4}{9} \right)^N \right\}$$

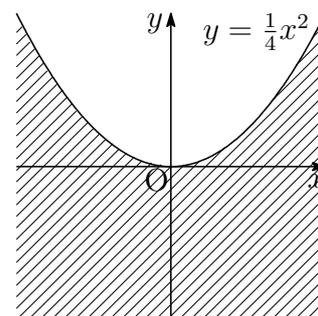
$$\text{したがって} \quad q_N - p_N = \frac{1}{5} \left\{ 1 - \left(\frac{4}{9} \right)^N \right\} > 0$$

よって、求める確率は、Aの方が大きい。 ■

- 3 (1) $f(p) = p^2 + xp + y$ について, $f(p) = 0$ が実数解を持つから係数について

$$x^2 - 4y \geq 0 \quad \text{ゆえに} \quad y \leq \frac{1}{4}x^2$$

よって, $D: y \leq \frac{1}{4}x^2$ の表す領域は, 右の図の斜線部分で境界線を含む.



(2) $f(p) = \left(p + \frac{x}{2}\right)^2 + y - \frac{x^2}{4}$

[1] $f(p) = 0$ の2つの解がともに $0 \leq p \leq 1$ にあるとき,

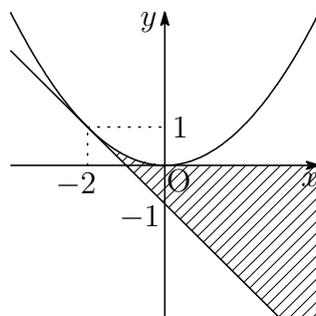
$$0 \leq -\frac{x}{2} \leq 1, \quad y - \frac{x^2}{4} \leq 0, \quad f(0) \geq 0, \quad f(1) \geq 0 \text{ より}$$

$$-2 \leq x \leq 0, \quad y \leq \frac{x^2}{4}, \quad y \geq 0, \quad y \geq -x - 1$$

[2] $f(p) = 0$ の1つの解が $p \leq 0$, 他の1つの解が $0 \leq p \leq 1$ にあるとき,
 $f(0) \leq 0, f(1) \geq 0$ より

$$y \leq 0, \quad y \geq -x - 1$$

E の表す領域は, [1] または [2] を満たす領域で境界線を含む.



- (3) $f(x, y) = x^2 + y^2 - 4y + 4$ とおくと, $f(x, y) = x^2 + (y - 2)^2$ は点 (x, y) と点 $(0, 2)$ の距離の2乗である. これを最小にする E 上の点は

$$y = \frac{1}{4}x^2 \quad (-2 \leq x \leq 0)$$

にあるから, $-2 \leq x \leq 0$ における次式の最小値を求めればよい.

$$f\left(x, \frac{1}{4}x^2\right) = x^2 + \left(\frac{1}{4}x^2 - 2\right)^2 = \frac{1}{16}x^4 + 4$$

よって, 求める最小値は $f(0, 0) = 4$ ■

4 (1) $f(x)$ ($0 \leq x \leq 1$) は単調増加であるから

$$\text{最小値 } f(0) = 1, \quad \text{最大値 } f(1) = \sqrt{2}$$

(2) $g(x) = \sin \frac{\pi x}{2}$ とおく ($0 \leq x \leq 1$).

曲線 $y = g(x)$ は上に凸であり, 2点 $(0, 0)$, $(1, 1)$ を結ぶ線分

$$y = x \quad (0 \leq x \leq 1)$$

の下側になくから

$$g(x) \geq x \geq 0 \quad (0 \leq x \leq 1)$$

が成り立つ. したがって, $0 \leq x \leq 1$ において

$$\begin{aligned} f(x)^2 - 2x^2 &= 1 + \sin^2 \frac{\pi x}{2} - 2x^2 \\ &= 1 - x^2 + g(x)^2 - x^2 \geq 0 \end{aligned}$$

$f(x) > 0$ であるから $f(x) \geq \sqrt{2}x$ ($0 \leq x \leq 1$)

上式および (1) の結果から $\sqrt{2}x \leq f(x) \leq \sqrt{2}$ ($0 \leq x \leq 1$)

(3) (2) の結果から

$$\int_0^1 (\sqrt{2}x)^n dx \leq \int_0^1 \{f(x)\}^n dx \leq \int_0^1 (\sqrt{2})^n dx$$

したがって $\frac{(\sqrt{2})^n}{n+1} \leq a_n \leq (\sqrt{2})^n$ ゆえに $\frac{\sqrt{2}}{\sqrt[n]{n+1}} \leq \sqrt[n]{a_n} \leq \sqrt{2} \quad \dots (*)$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \log \sqrt[n]{n+1} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\log(n+1)}{n} = 0$ より $\lim_{n \rightarrow \infty} \sqrt[n]{n+1} = 1 \quad \dots (**)$

(*), (**) から, はさみうちの原理により $\lim_{n \rightarrow \infty} \sqrt[n]{a_n} = \sqrt{2}$ ■

